



令和5年10月2日
東京都立石神井特別支援学校
校長 柳澤 由香

学校だより

体験的に学ぶということ

副校長 佐藤 匡郁

夕暮れに聞こえてくる虫の音に、少しずつ秋の気配を感じる季節となりました。食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋、秋は過ごしやすい気候や晴天に恵まれやすいことから、様々な体験に適した時期と言えます。学校ではこの時期、校外での学習活動を多く実施しています。

学校を離れ、校外で学習活動を行う体験活動とは、子供たちが、身体全体で自然や社会に働き掛け、積極的に関わっていく活動です。子供たちは、具体的な体験や事物との関わりを手掛かりにして、感動したり、驚いたりしながら、実際の生活や社会、自然のあり方を学んでいきます。このような、子供たちの成長に大切な直接体験ができる機会が、遠足や移動教室などの校外での学習活動です。

新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、学校の教育活動は大きく変化せざるを得ませんでした。それまであたりまえのように直接触れ、実際に体験することができていた事物に対し、インターネットやテレビ等を介して感覚的に学びとる「間接体験」や、シミュレーションや模型等を通じて模擬的に学ぶ「模擬体験」など、直接触れることのない学習形態が加わってきました。そしてこれからは、これらの学習形態を効果的に組み合わせ、相乗効果をねらったハイブリッド型の学習活動を展開していく時代だと考えています。

これらの学習活動が今後も充実したものとなるよう、教職員一同精一杯取り組んでまいります。保護者・地域・関係機関等の皆様には、引き続き御理解・御協力をよろしくお願いいたします。